梅うえの者
其葉鄙面の
傳三郎
代申彩版
一蓑作
豊国画
線茉堂
信濃堂合梓
英泉画

弘化申歳新春發

其紫節の俤

三篇　上冊

京都祈年祭御迎提灯之図

仙鶴堂
錦林堂　合板

此序を書んとさと思時ふ一個の客あり吉年賣出せり初編二編の
真木柱の巻とろ如何なる者ぞと問れくこめ之れ新
巻生の木ごりふ假名まり柱の岩ハ暫をき器賊ふ老筆ふ時繪あり
武器ふ腰巻蕎麥ふ花籠物牛蒡ふ豆蔬あり農夫乃耕作ふ
種蒔のまこは田舍の種代蒔ふ實生を栽倍せんかなよ
まごころ色抜ハ接穂ふ宝笑ハ云ハとも夫と知ハ色接ふ枝ふ源ふ接
ご源ヒ一の後ごとも皆人魚ふ言ハ僅胡好ふ稱ふ迎打をるびらといふふ
ハらふ稼ど蕎麥食ふ出ふ好ぐふわんの南蠻北の蕎麥めるまるまる
ふ新ふ新ふく鮫ふ先ハ世方ふ切揚ふて初秋迄懶隨俵ふ蕎麥ふ接ぶ
新ふく發客ふ一ふく言やうまぐ言ふ
蕎麥ふ作者が世られて然らハふ
をなのげふ巻柱の語釈の酒ふ醉る如く辻褄なふ反接ふ客ふ笑て
果ふく帰り也序文の支ハふ

享年間印本今様榮花物語を模写す

おもしろ金帝を寒くあるぬ
維時弘化丁未歳初秋稿脱
同戊申年新春發兌

一筆斧主人識

此巻い薫物のことを記せり故に題して
読む其因ふこうり
花鳥餘情ふ薫物を埋む源と
尋ぬしべ梅花に梅の元菊花に菊の
元ふ埋と澄懐録。香譜ふ載唐
ふも梅花の薫物ひり香を制作らる
者諸香を合氣ふ梅花の如くあり
しむ是を歸して迷魂梅と云と見え
う後柏ふの柏玉集ふ池の蓮と称
水辺くうめべまるる
ひもこれう池のれちと我ふ薫集類
抄ふ荷の香ふ擬せ夏月殊ふ芳
芳を施せと云ふ梅花ふ花ふと
云てれちもの香ふようてくう侍後
と云ふ秋風涼くひあくきあふ

薫物合せまくら巻之下
出る水桂の男踏舞を秘千の
稲荷祭ふ
名音こ
めぐしられ
とそもされ
旬薫の花こ
うたを新
約ら薫の合の章こ
名香ふ善隨の
欲合る
趣向
と
せる
特色時代ちがの

巻の名
櫂元琵琶を弾じて催馬樂の
梅ヶ枝を唱ふ

梅ヶえ
むめがえにふるゆきの
雪や梅にうけて
ちる花

二段
梅ヶえに
ほころびそめる
はるかぜに
ちらでとまれる
はるのゆき

三段
なのりそそ
うやきそ
ありけく

薫物合の後
「ことゝしうも面白く
おもしろき夜の中あまび
ありとそそるぐるふ
るそくうくうく
此花の名の
えうう

足利の室
此糸の上

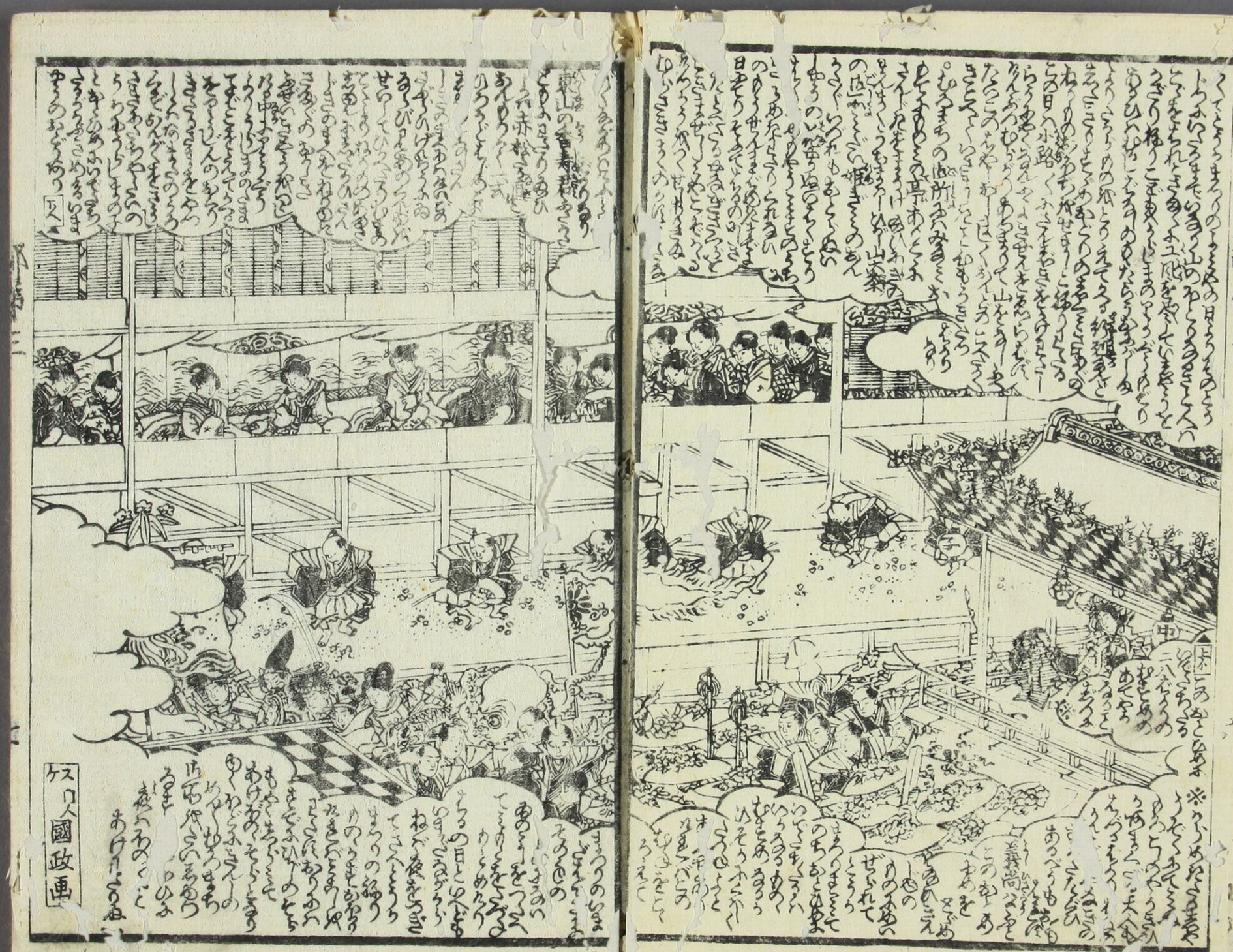
千鳥の曲を奏あ
此糸は琴の琴ふて
「むかしぐるぐるぐるぐる
琴ふを風流
いろいろ花ふかぐろ
賞
「ちるみちる
里の住まひ
くるぐの
琴の音
花鳥の
神の
香ふ
ふかくふく
「ちるはなのあちこち
花ふかくふくあてのの
あくぐの外ふなのぐる
下畧

足利
櫂元卿

夕霧の宰相比まる
足利雲井之丞氏仲

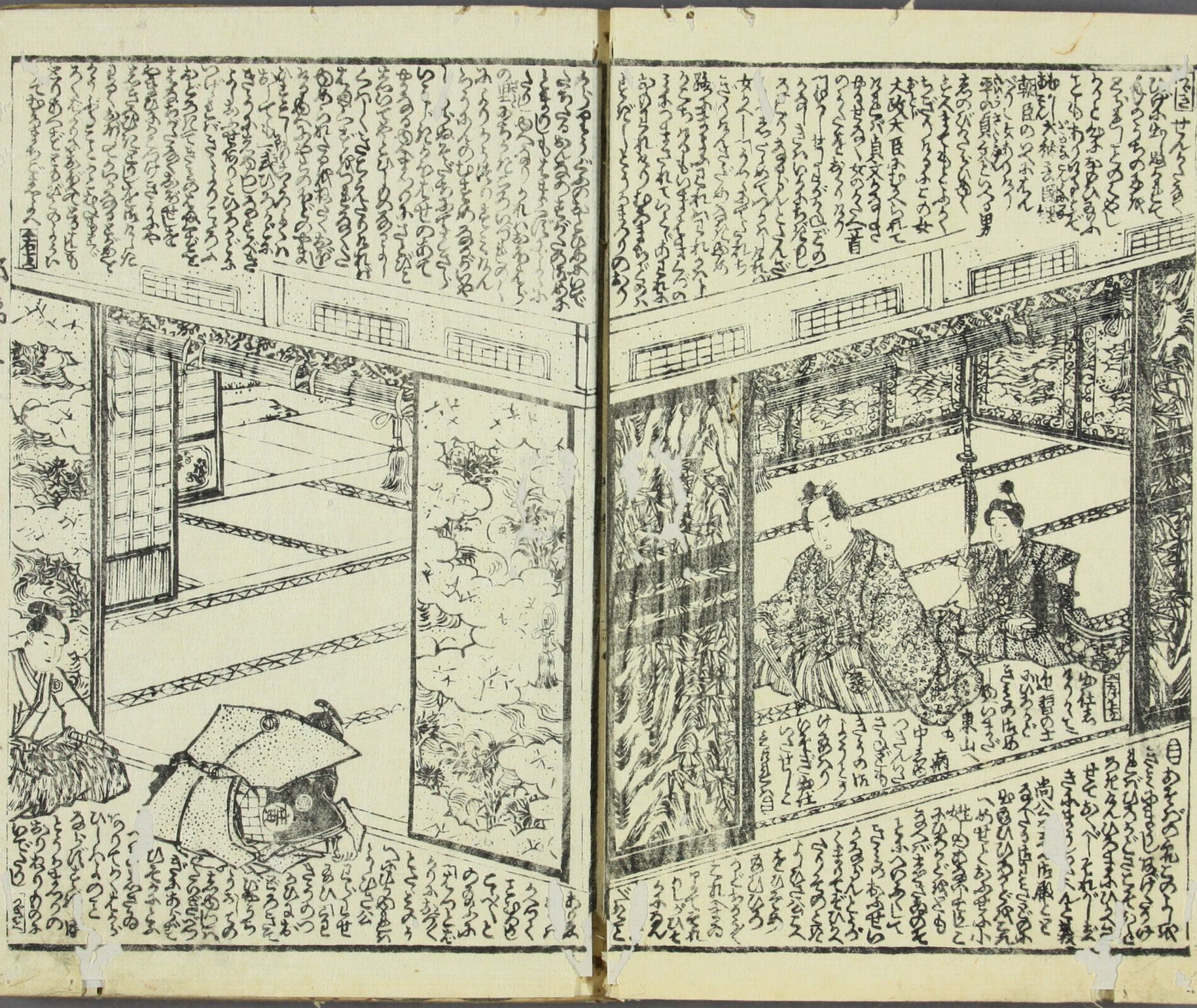
雲井の厂お比まる
赤松高直の
息女
雁音

稲荷祭
門人国政画



國政画

濱島室町の住所を退出せ



一陽齋豊國畫　一筆菴主人戯作

[illegible]

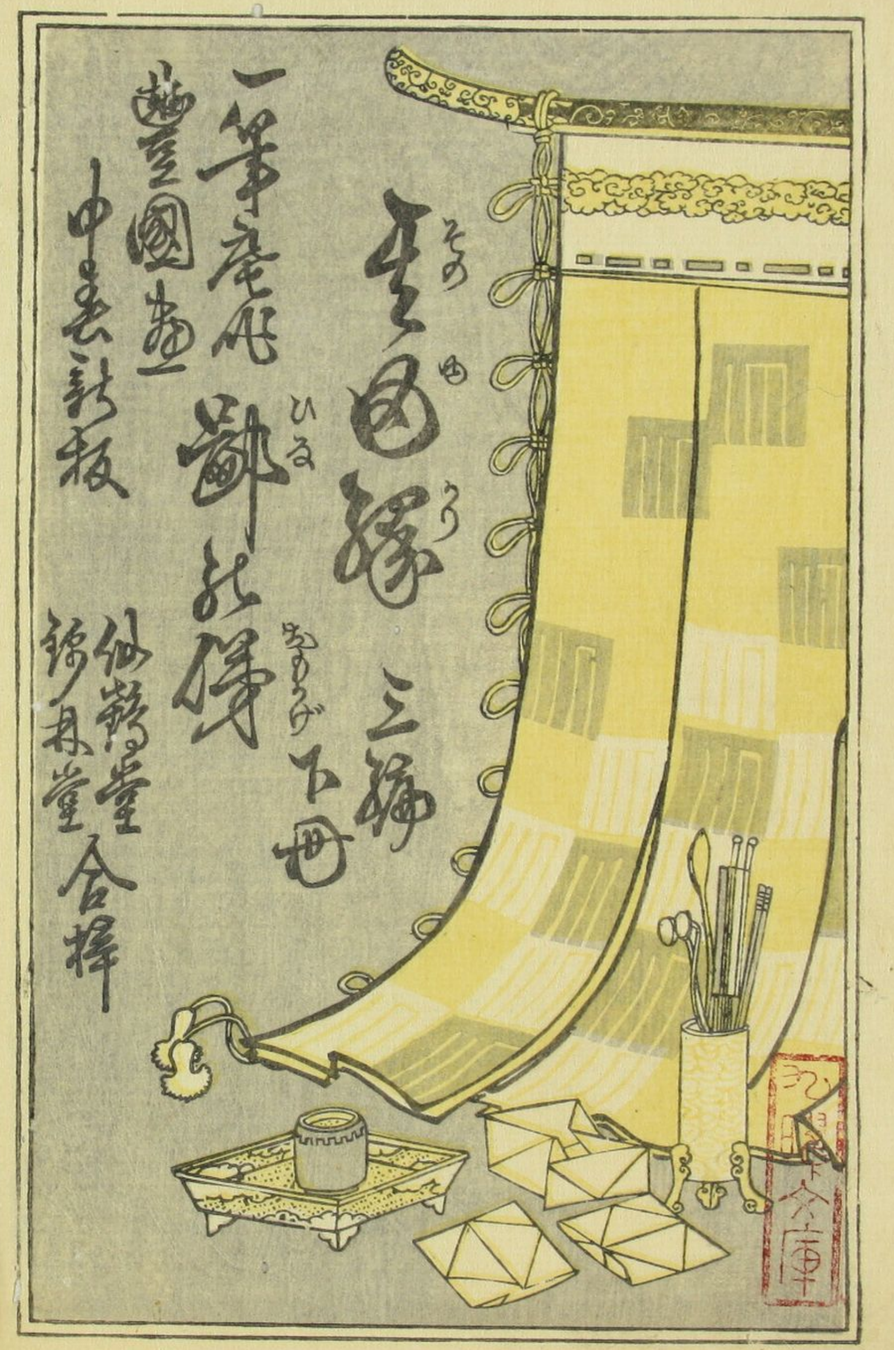
[illegible]

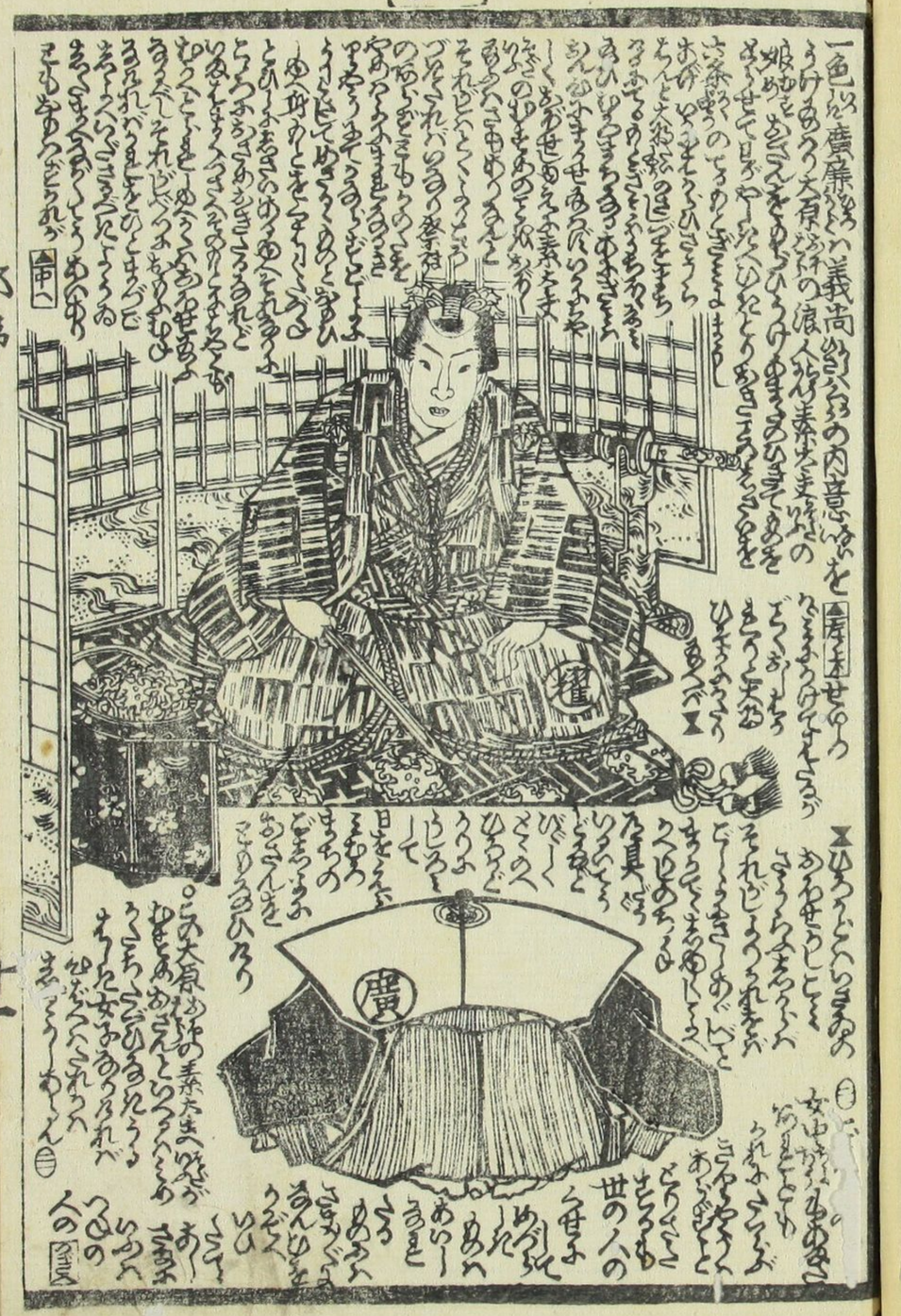
浄寫　隨風舎[illegible]

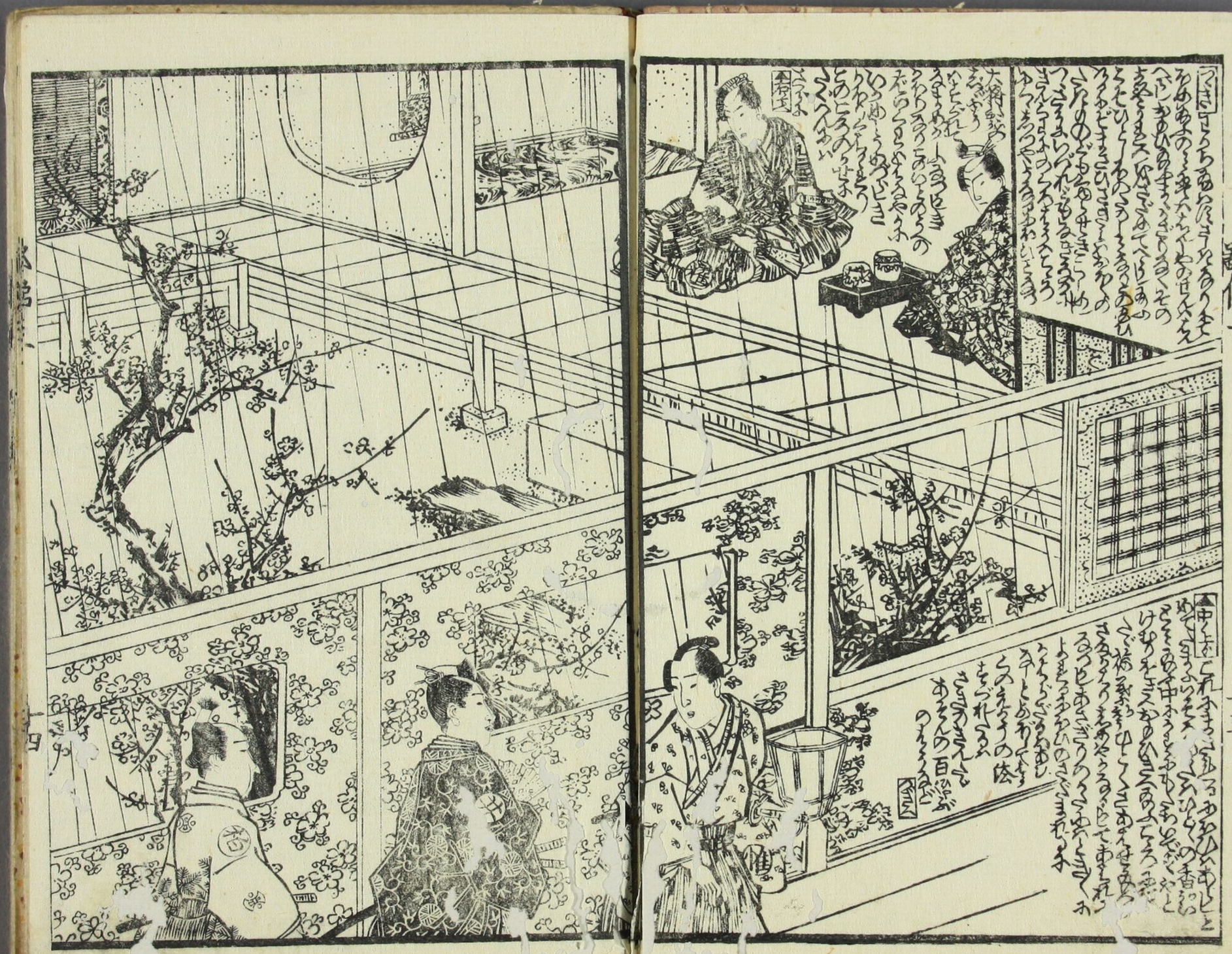
偐紫鄙襯染

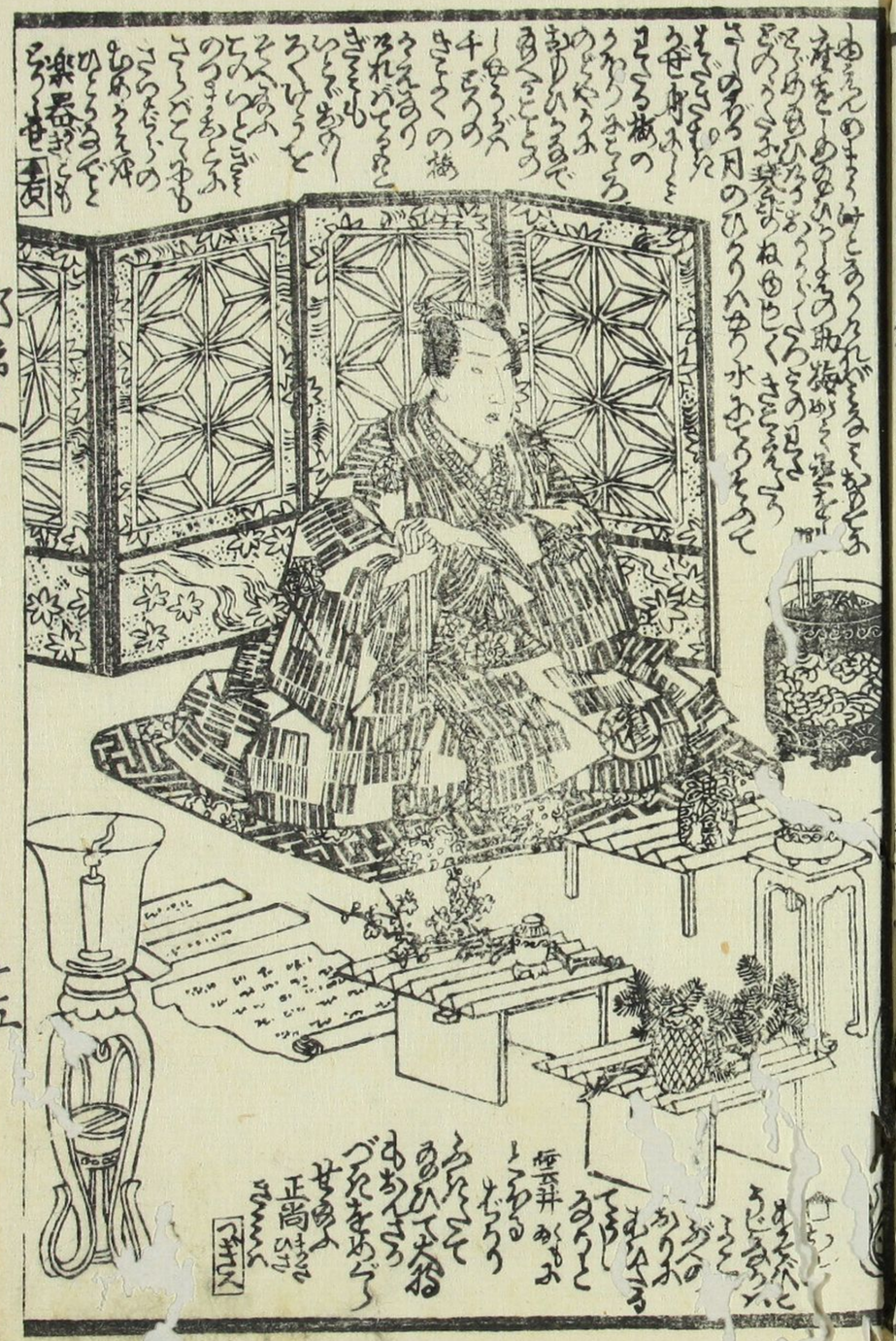
再　一筆菴主人作
初編ヨリ追々出板　一陽齋豊國画

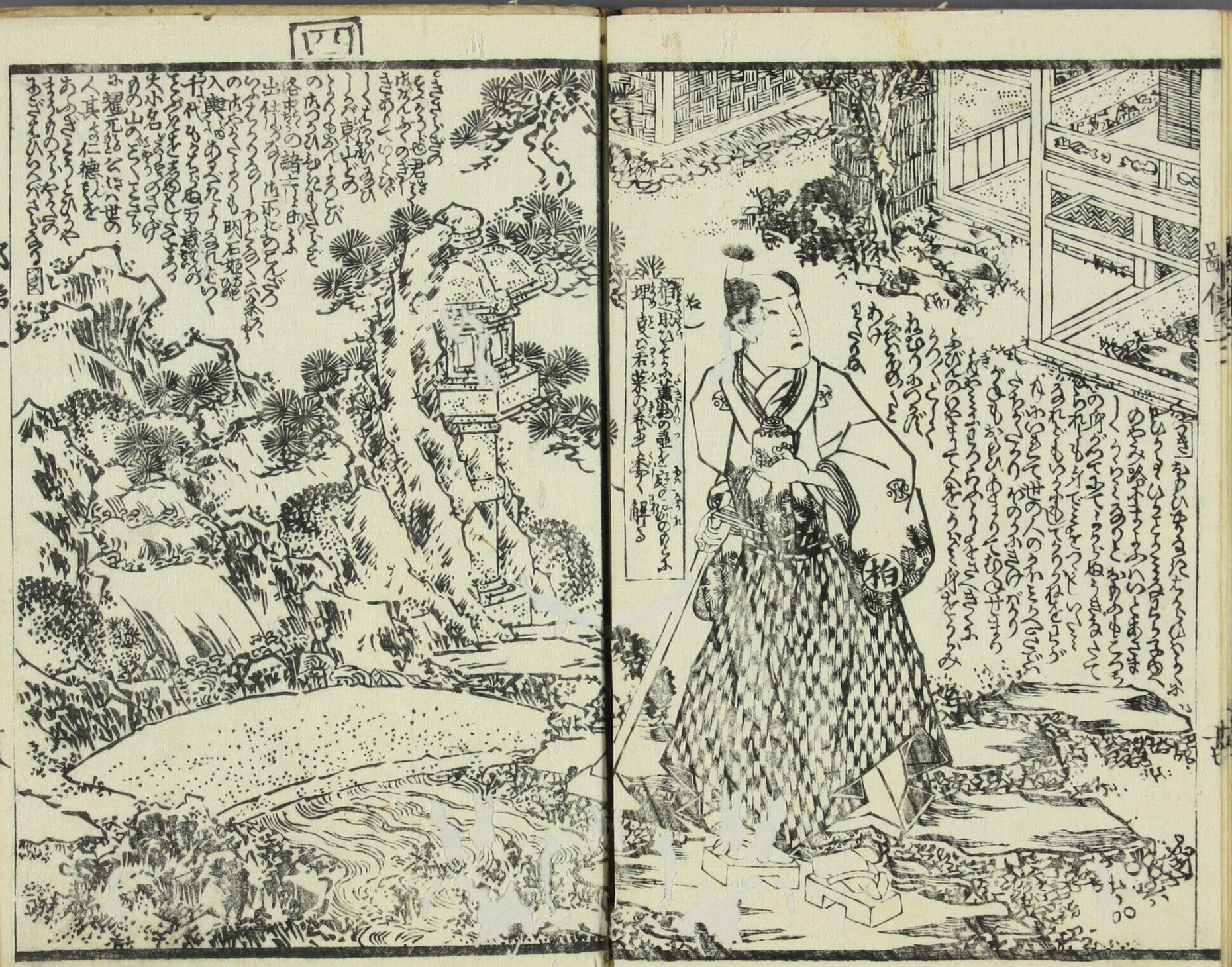
此草紙ハ享保元文の頃錦文流の著せし風流源氏物語の叙を其侭に撰し外題に異しあり雲のうへある故凌ぎ鎌倉官領の時代ふ皆し桐壺の巻よりして作者一家の新案取出し起り要を摘長編を縮めて結局ふ至る其傳の下染とハ信天翁の偏ふ似されを挿ミ有渡あのとそれハ何れも郷ふ偐紫楼先生著述の本傳ハ手が家の蔵販ふて世[illegible]来者官場せさるハなく是より江湖上の合巻と見冊子皆此様ふ做ふ在の今猶然り文政己丑の年より刊行を許十有九年未だ結局ならで惜ハ剞劂の板毒ハ高月ともふ遺憾ふ堪ん思ひふ鄙の俤时好に協年毎ふ綴せバ前尾全て备さんと此編ふて有あらん出板遅滞なき様ふ此末の栄を希　板元鶴屋喜右衛門謹白


其国郷
一筆庵歌麿
三編
豊国画
仙鶴堂
鶴寿堂合梓








柏

豊國画 一筆莽主人作

梅うえの巻こゝみ
迎慶招福
傳書
柳枝

其紫鄙迺俤

三編
四編

一筆莽主人作
一陽齋豐國画

第三編へ梅ゞえの巻四編へ梅のうゑの巻こゝ其の巻の巻まつり此編へ字治十帖の伏線あて女三の宮の宮の御
菓の巻の巻まつり
擬一筆夫將の世ふ世ふ
大將が猫の恋を牧恋の夫ふ
是幸傳の一部の佳境と
の猫君青鬼の思恋を

大新の書長く物語りを續き若い連れて旅路に上ぼり
奇觀に眼を驚し紀行を心を慰む日い稀ふて風雨霜雪に行艱
路に險阻に苦を嘗め新路に上ぼり新原道に長くして憩む
暮に泊も宿場に宿り饗退屈して道に疲れ蔓に鄙路あり
不歩運往方の的に幸くして遠くて分に遠く分に長
幸抱ふて長く長物語りと觀る
向こう場い繰ふべし今此書に
おもしろい人の習慣も書に
学ぶ術構の仕方も落こ獨旅宜く名所古跡を見道者所に看
筆路の次第へ書に向りの果敢
書に生涯の書信の婦幼
維時弘化四年歳在丁未
初秋稿脱同戊申春發市

一筆奔主人誌

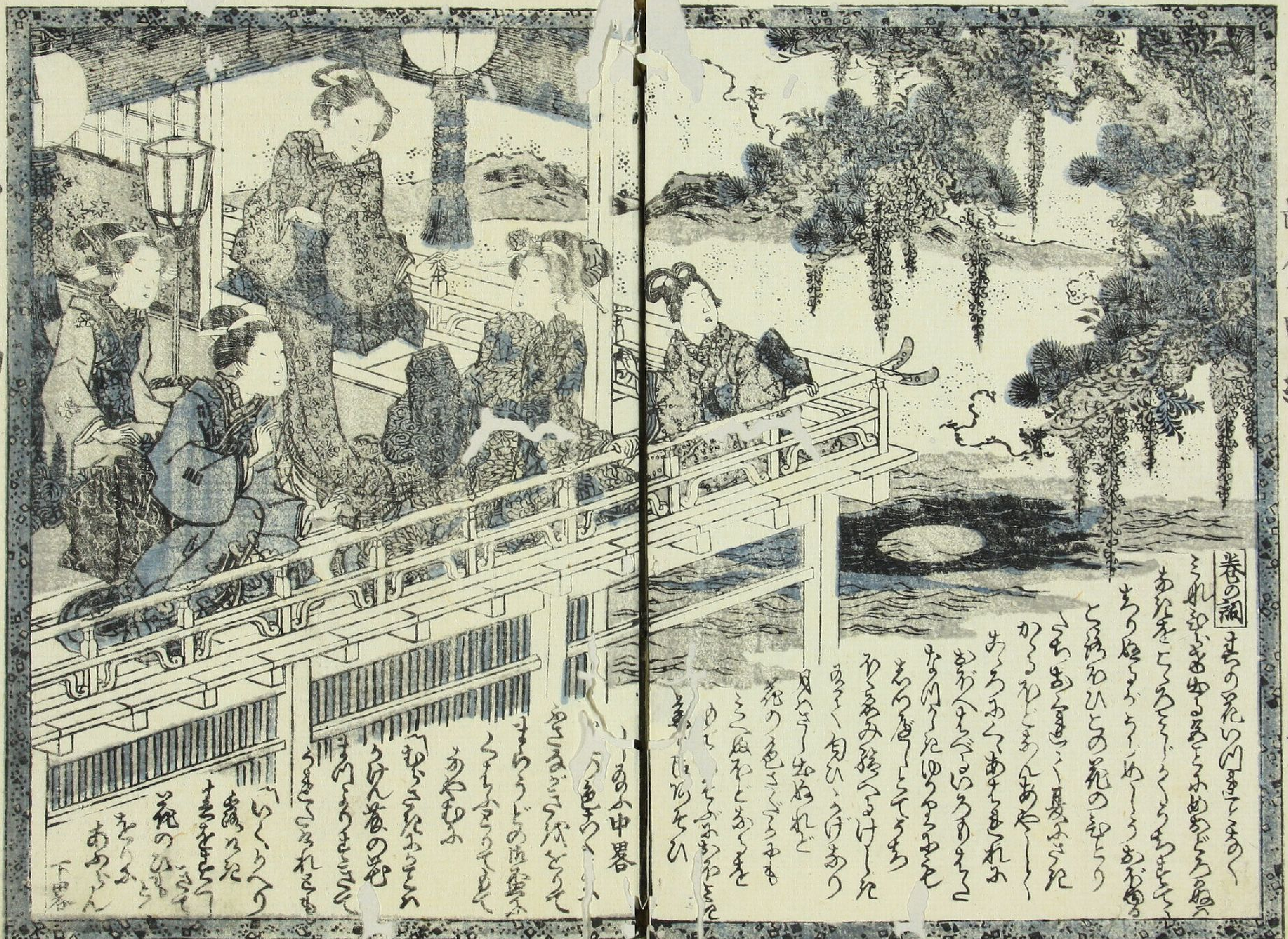
藤の裏葉乃巻

赤松梅之丞

足利雲井氏仲之丞

赤松

柏之助



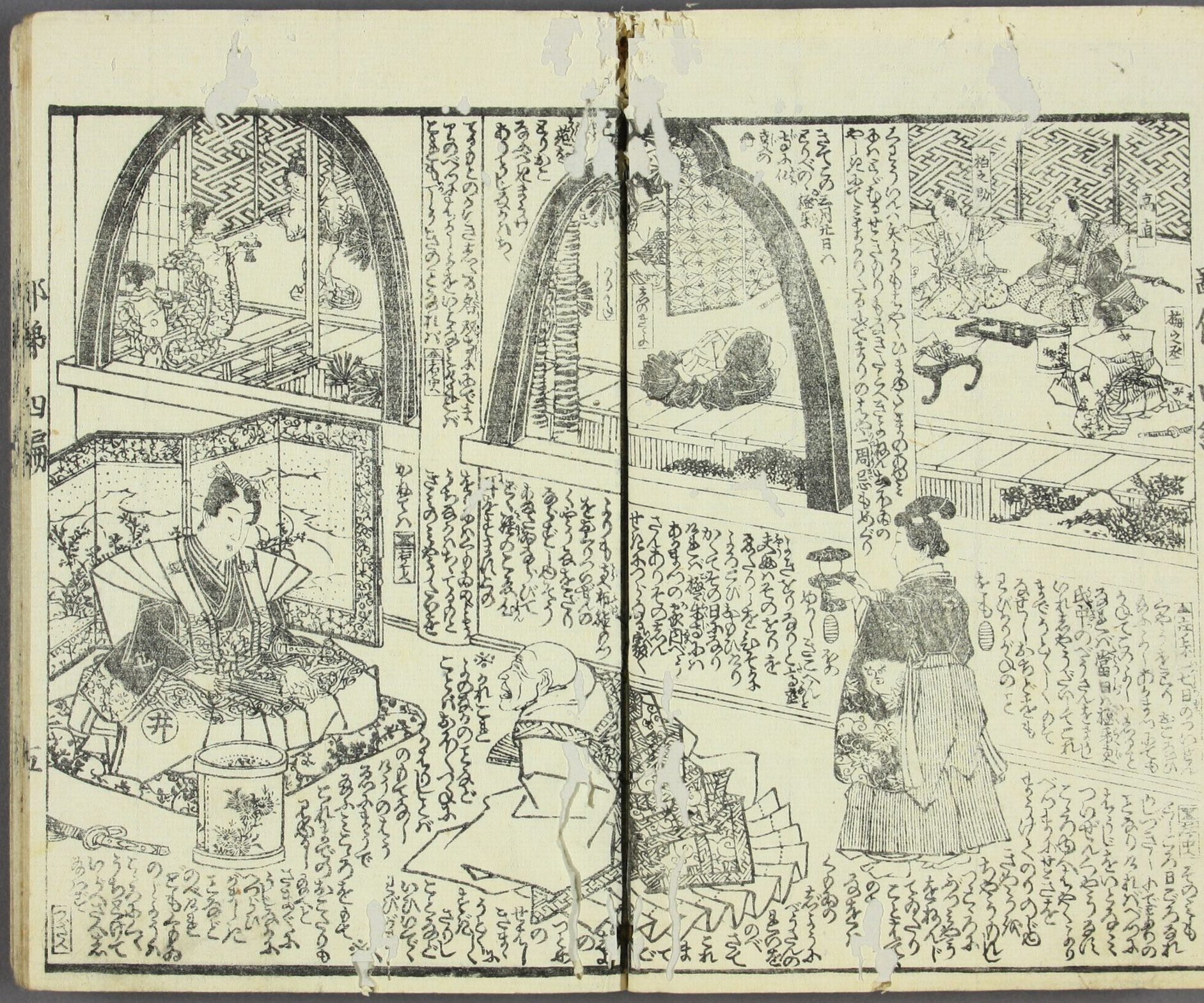
巻の詞

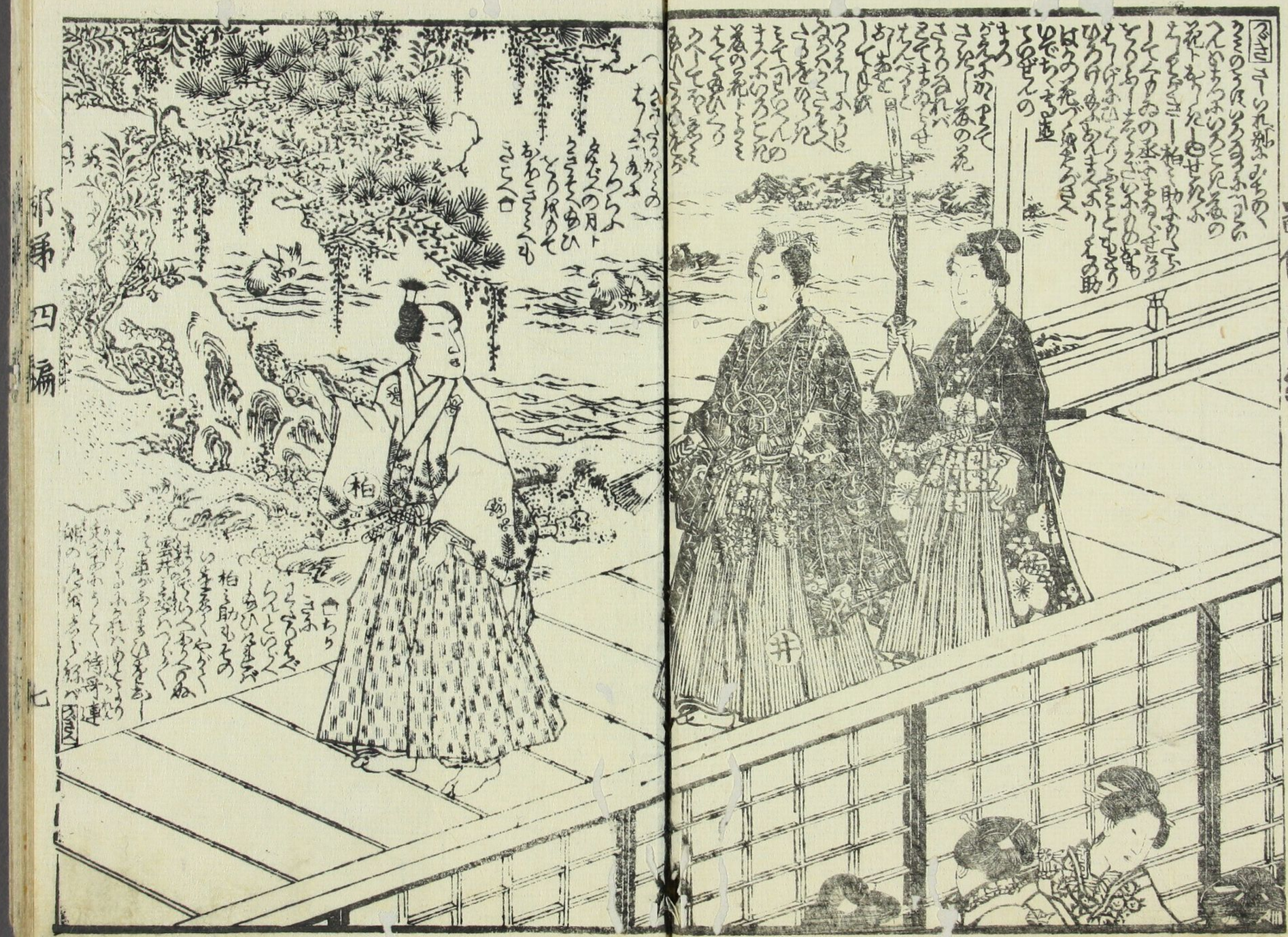
ふぢの花は川までとゞくそのく
これやむかし出る名どころにめでたき
あまたところどころめぐらちたまふ
まり給ふがらいめしうちかゝれ
とらわひとつの花のむらさき
うちにあまたゞく夏のさかり
かゝるにあんあそびしく
おもしろふくてあまりまつれに
おぢへもべるいろありそ
なれ川のゆかりのまちも
まろ居にうてちまち
わか名み給へるけしき
あそく見ひうけあり
月へ言し出給ぬれど
花の色さくかも
こゝ給わどあまつきを
めでたそぶあまりとて
義に給へそひ

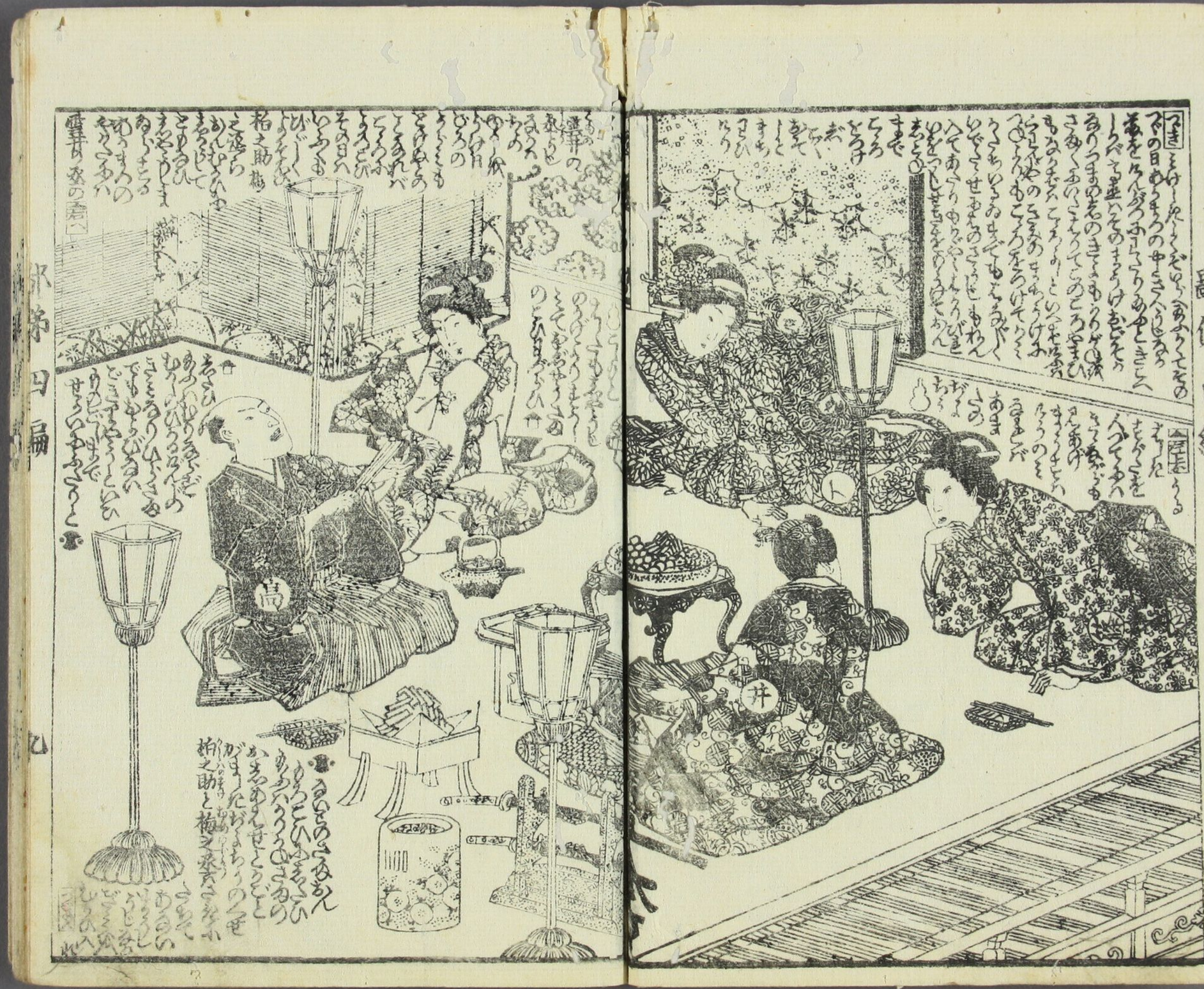
いまの小中暑
つ色まつくし
やさまざさ代とりて
まわうどの流露に
くちふさうてみて
あやむかし
「むらさきかなる
うけん蓑の花
まいりまさきて
うまてされるも

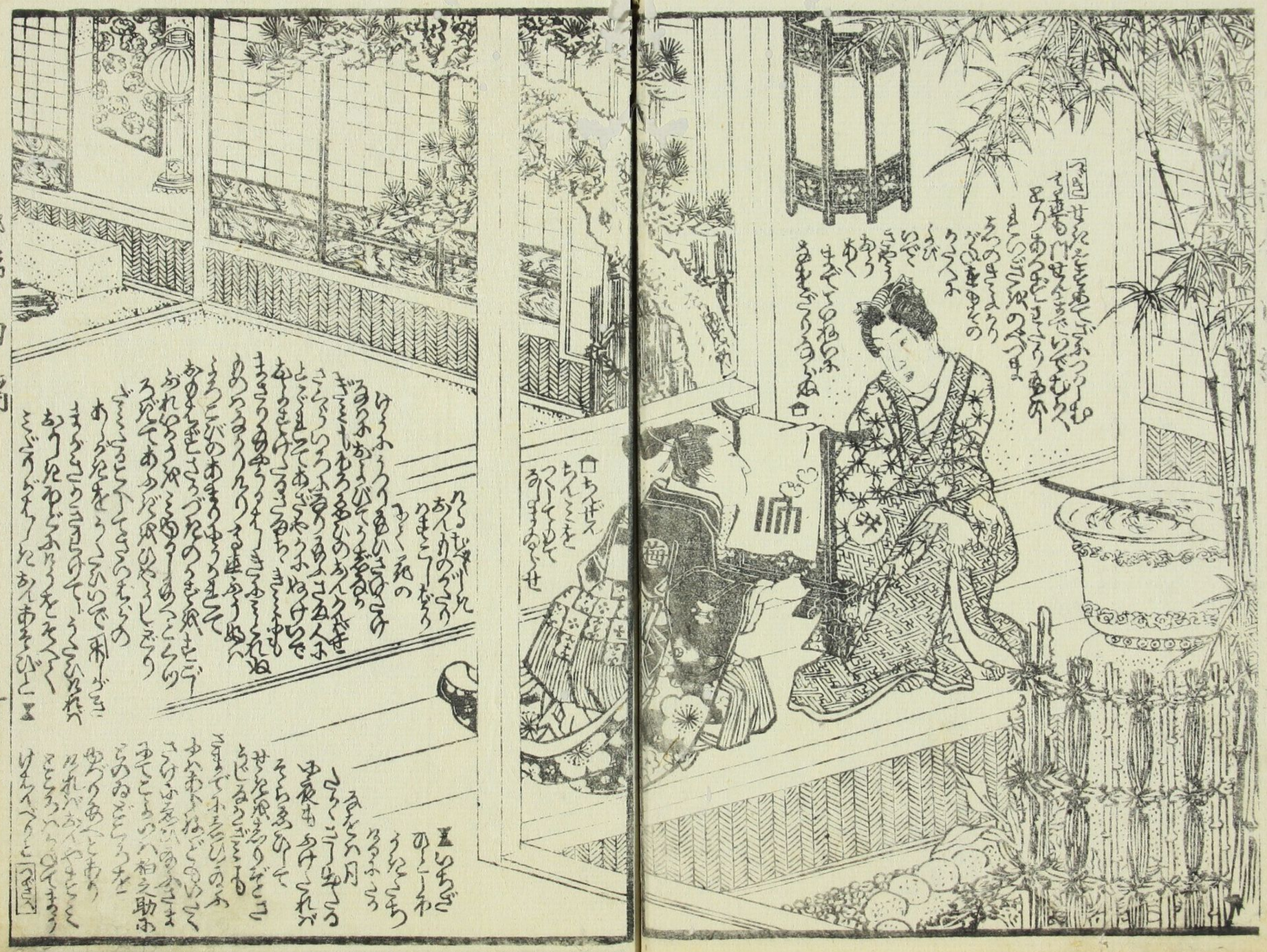
「いくらへり
露れた
まちをとて
花のひさ
さうふ
あふらん

下田磨


梅之丞
高直
井


井
柏





新刻 朱字細註横本
校正 御江戸昌平町鑑 全一冊出版
半紙摺薄用摺

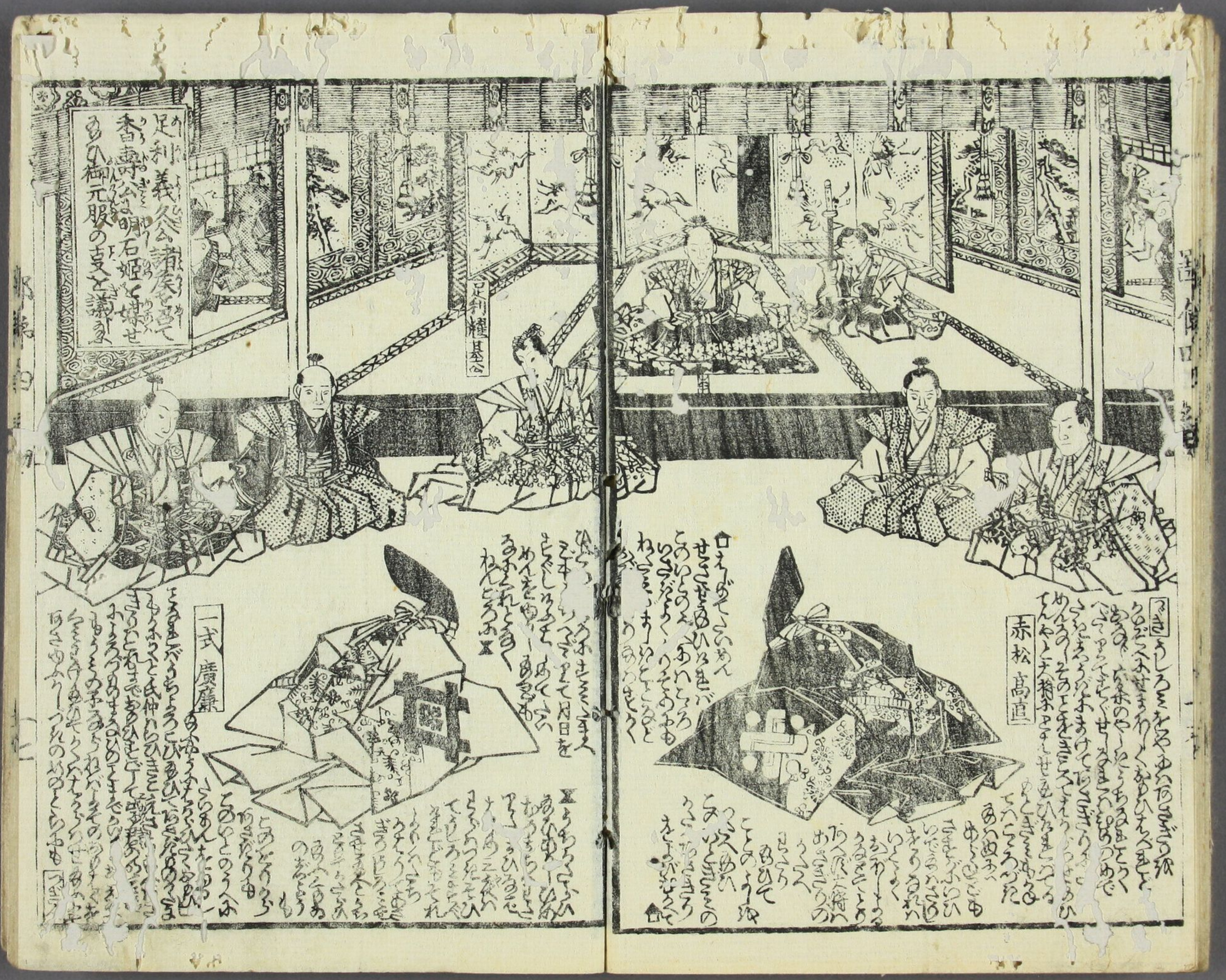
幼童教訓 面白ちくしん 袋入柳下亭種員作 一卷一勇齋國芳画

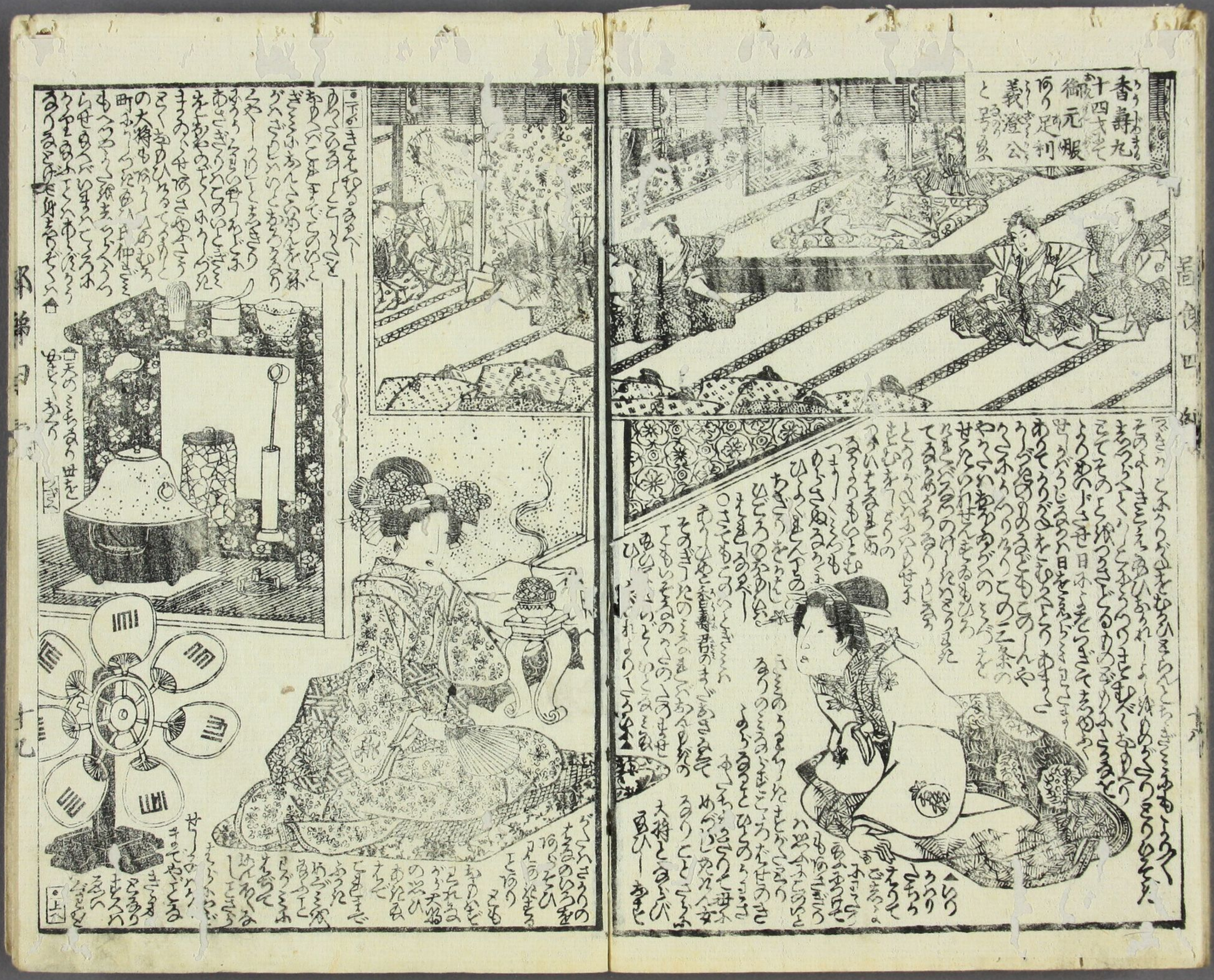
教訓浮世めがの孫 全三冊万亭應賀作 出版溪齋英泉画

孝子心志度六 悪賊心魔度六 雙言討妙々車 全二冊柳下亭種員作 近刻一勇齋國芳画

刊行書肆 東都 錦林堂

勝の玉
芝宇田川丁大三千
賣広所　丁字屋文藏
廣香松本
精製
一笑庵


足利義公
足利義政公
赤松高直
一式廣康


香壽丸十四才ゟ御元服
源の足利義澄公と号す

嘉永二己酉年孟春新板目録

勸善懲悪 其紫鄙迺傳 四編 一筆菴主人作 出版 一陽齋豐國画

同 五編 六編 引續同 出版同 作画

勸善懲悪 乗合噺 六編 柳下亭種員作 出版 一勇齋國芳画

同 七編 八編 引續同 出版同 作画

業平源太東下り 関東小六都上り 旅硯街道日記 全六冊 柳下亭種員作 近刻 一勇齋國芳画

美玉みがき粉 一包代三十二銅 家傳別製 御茶こなぐすり 一包代十六銅 江戸室町二丁目 塗物本屋九兵衛

版元 神田鍛冶町二丁目 太田屋佐吉

其紫鄙面影四編

一華斧作
豊國画

仙鶴堂